

地方短期大学の多面的な就職支援

村木 永親

(函館短期大学 事務局長)

(大学の概要と地域環境)

函館短期大学が立地する函館市は、北海道の南西部にあり近辺は、港や湯の川と名打つ温泉街など、観光地としての実績があり修学旅行生は通年して散見される。近年は韓国や中国からの観光客でにぎわいを増し、特に中国からの観光客が多くなっているとの旅行会社等の報告もあり、中国経済の発展ぶりの影響なのかと思索するところである。

函館空港から温泉街まで車で一五分位で、三方向を海に面し、スキー場やゴルフ場を山に持ち、大沼という湖水の綺

麗な大自然が繁華街からわずか一時間圏にある。人口約三〇万の地方都市で、主たる産業は水産加工業と観光である。観光客は不況が続く中、年々減少傾向をたどっているが、それでも年間四三三万人が訪れる。

将来的には新幹線が青森より延伸することに期待がかけられている。このような地方都市に七校の高等教育機関が設置されている。この内訳は大学四校、短期大学二校、高等専門学校一校である。本学はさかのぼること一九五三(昭和二八年)年四月に函館市柏木町で開学した函館商科短期大学を前身とし、一九六五(昭和四〇年)年食物栄養学科となり、二〇〇九(平成二一年)年に保育学科を開設し二

学科体制となった。現在のキャンパスは、函館市の東に位置し複数の教育機関が立地する高丘町にある。本学の教育目的については、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際の生活に必要な能力を育成することとあり、さらに高度に発達した人格を有し、人類社会に貢献しうる職業人の育成を教育理念としている。本学の教育目的を具現化するには、資格教育であると確信し今日まで実行している。本学で取得できる資格は多岐にわたっているが、果たして本学の取得できる資格が就職先に役に立つかとの疑問を呈する論者も少数あるものの、卒業生の動向等を見る限り前者を否定せざるを得ない、つまり効果は大いにあるとの結論である。

（取得できる資格と取り組みの概要）

本学で取得できる資格は、食物栄養学科のメイン資格である栄養士、保育学科のメイン資格保育士である。これを基盤としてさらに、栄養教諭二種免許、中学校教諭二種免許（家庭科）、フードスペシャリスト、調理師（付設調理師専門学校でのダブルスクール）製菓衛生士国家試験受験資格（付設調理師専門学校でのダブルスクール）、健康運

動実践指導者、レクリエーションインストラクター、AD I（エアロビック・ダンスエクササイズインストラクター）、介護員二級（ホームヘルパー）、幼稚園教諭二種免許、MOS（マイクソフトオフィススペシャリスト）検定等が取得できる。以上の資格が相互して有機的に関連している。

学生は、通常二種類以上の資格を取得しており、中には五種類の資格を取得する学生もいる。各資格は相互にどのように関連するのか、栄養士と介護員二級資格との関連で見ると例えば、栄養士として介護施設に就職した場合、介護についての知識があることが現場では大変役立つという声を聞く。他の資格においても相互に関連があり資格を多く取得する学生は就職活動において有利であるといえる。また、資格が直接係わりなくとも学習努力の表れと取ることのできる。本学では、就職支援策として資格教育を付してきた。これは結果として短期大学生の専門分野の学習で積極的な復習につながり、確かな教育力の向上につながっていると見えよう。

（資格取得方法と地域社会との関係）

資格を付与する時には、関連協会あるいは協議会等の力

特集・就職支援～学生の職業意識の醸成～

をお借りするわけであるが、例えば介護員二級養成研修の場合は、函館市社会福祉協議会と共催し介護員の養成を行う地域社会に有為な人材の供給をしている。資格教育の中の高等学校との連携（高大連携）も行われており、地域社会においてその機能を必要とされていると自負するところである。

（在学生の資格取得状況）

本年度卒業生についてみると、食物栄養学科の資格取得状況調査結果（保育学科は新設のため卒業生はいない）を見ると、本年卒業生に対して栄養士は（九八％）、栄養教諭二種免許（二三％）、中学校教諭二種免許（家庭科）（一一％）、調理師（付設調理師学校でのダブルスクール）（三八％）、製菓衛生士国家試験受験資格（付設調理師学校でのダブルスクール）（一四％）、フードスペシャリスト（四六％）、健康運動実践指導者（二〇％）、レクリエーション・インストラクター（三％）、A D I（エアロビック・ダンスエクササイズインストラクター）（五％）、介護員二級（三一％）、M O S（マイクロソフトオフィススペシャリスト）ワード（四二％）、M O S エクセル（四五％）、M O S

パワーポイント（一一％）である。次に本年卒業生が一人何種類の資格を取得しているかを見てみると次の通りである。二種類が（九％）、三種類（三八％）、四種類（二七％）、五種類（一六％）、六種類（八％）、七種類（二％）である。次に様々な組み合わせの中で学生が最も多く取得した組み合わせは、二種類では栄養士とフードスペシャリストとの組み合わせが多く、次に順をおっていくと三種類は①栄養士＋栄養教諭二種免許＋中学校二種教諭（家庭科）②栄養士＋フードスペシャリスト＋介護員二級（ホームヘルパー）③栄養士＋フードスペシャリスト＋調理師、四種類では栄養士＋フードスペシャリスト＋栄養教諭二種免許＋中学校教諭二種免許（家庭科）、五種類では栄養士＋フードスペシャリスト＋レクリエーション・インストラクター＋介護員二級＋調理師、六種類では、栄養士＋フードスペシャリスト＋レクリエーション・インストラクター＋栄養教諭二種免許＋調理師、七種類は栄養士＋フードスペシャリスト＋レクリエーション・インストラクター＋栄養教諭二種＋介護員二級＋健康運動実践指導者＋調理師である。このように、資格取得に要する総時間数は二学科分の時間数をキープしているといえる。学生にとって学習時間は膨大であるが、学生の自己学習能力が身についていく様子がうかが

える。

（科目と資格の関係）

本学の教育課程は基礎教育科目と専門教育科目及び就職専門科目で構成されている。栄養士養成の必要科目あるいは、保育士養成に必要科目、また、栄養教諭二種免許や中学教諭二種免許（家庭科）取得に必要な科目が必置である事は当然とし、他の資格取得と科目を見ると次のとおりである。フードスペシャリストでは専門教育科目の「フードスペシャリスト論」「フードコーデインイト論」「食品官能評価」「食品流通」栄養士必修科目に前記四科目追加取得で資格が取得できる。レクリエーションインストラクターでは、「レクリエーション現場実習」「給食管理実習Ⅲ」「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「生涯スポーツ演習」を取得することにより資格取得ができる。情報処理のMOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）の資格では、基礎教育科目の「情報機器操作Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ」が該当し、ADI（エアロビックエクササイズ・インストラクター）では、「有酸素運動の実技」や「体育実技」が該当する。健康運動実践指

導者では「健康管理概論Ⅰ・Ⅱ」「健康運動概論Ⅰ・Ⅱ」「有酸素運動の実技」「水泳・水中運動演習」「トレーニングの理論と演習」「健康・体力測定演習」「スポーツ心理学」「運動障害と救急処置」であり、教育課程内で取得できるシステムである。教育課程外での資格取得は訪問介護員二級で養成研修として、冬期休業や土曜日を使用し授業を行い、資格取得に挑戦している。

ADI（エアロビックエクササイズ・インストラクター）についても、補いをADI養成講座で行い、調理師や製菓衛生師国家資格受験資格取得では付設調理師専門学校の間部授業で取得する。大きく分けると資格取得の学習方法は、通常の授業の中で取る資格と、夏期休業や冬期休業や土曜日等を使用して取る資格、また、付設調理師との連携で取る資格とに類別できる。

（就職支援組織）

就職を支援するため学内に支援のための部署や委員会等がありどのような内容かは後記のとおりである。行動計画一として、三月までに担当責任者と委員の委嘱する、行動計画二として、四月上旬に学生へのオリエンテーション実

特集・就職支援～学生の職業意識の醸成～

施する、行動計画三として、九月末学生の履修状況の確認する、行動計画四として、二月末までに資格付与認定作業と監督官庁報告である。各委員会と就職支援との関係では、教務委員会は食物栄養系の資格あるいは保育系の資格を把握することとなっている。食物栄養系では、栄養士、調理師、製菓衛生師、フードスペシャリスト、栄養士実力試験管轄し、保育士も管轄する。フィットネスセンター運営委員会では、レクリエーション・インストラクター、ADI（エアロビクスエクササイズ・インストラクター）、健康運動実践指導者を掌握管轄し、教職資格支援プロジェクトチームでは、栄養教諭二種免許、中学校教諭二種免許（家庭科）、幼稚園教諭二種を掌握管轄する。情報教育プロジェクトチームでは、MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）検定試験講習会等を把握管轄する。管理栄養士プロジェクトチームでは管理栄養士国家試験受験講習会を把握管轄する。就職支援委員会では、介護員二級を把握管轄する。これらの委員会が就職支援部と連携して学生の就職活動等に寄与していると言えよう。就職支援において資格取得支援は欠かせない課題ではあるが、学生自身の向上についても援助を欠かせない。学生の社会的常識の涵養のため基礎教育科目の「社会人基礎論Ⅰ・Ⅱ」が設置し

である。日常的に直面する社会人としてのマナー等はこの講座で行われている。さらに、企業経験者の外部講師としての招致、やホテルでのマナー講習会、各団体の主宰する企業説明会への集団参加、協会が行う栄養士養成実力試験の参加、これは全国の栄養士養成校が参加しておこなわれているので客観的判断ができるメリットがある。さらに、就職ガイダンス開催、今日的就職状況の報告や情報を学生に伝えるなど学生との相互の連携を主眼にしている。また、付設調理師専門学校との連携を密に行っている。本学の就職情報のための両校での連携を密に行っている。本学の就職情報の具体的な流れとしては、本学にSL（教養ゼミナール）という組織があり、これは各教員が各学年別に学生を教員全体で配分しゼミ形式をとる制度でいわゆるゼミとクラスの担任制の合体的制度である。一人の教員が各学年八名位の学生の集団を引き受け、学習相談、生活相談や就職相談等も行っている。就職支援部では、企業からの募集等の情報は各SLに伝達配信し、情報の共有を促し、学生の動向や情報をリターンされるのを受けてから、募集企業へ連絡する方法の一つの方法として実施している。また、直接学生が就職支援部に相談に来る場合も親身に受けている。学生の就職活動において、インターネットの検索も常識的と

なっている今日、システムの構築が不可避となってきた。この度、日本学生支援機構の補助を受け、パソコンをキャリアアゲインコーナーに導入し補強した。学生への支援環境も一段と整ったといえる。学生の使用頻度が増えてきている事がわかる。

前述のとおり就職支援事業を行ってきたが、その結果を見てみると、就職者を一〇〇%とした職種別内訳は次の通りである。栄養士四五%、事務職一八%、調理職一五%、介護員六%、サービス四%、中学家庭科教諭三%、公務員三%、スポーツ指導員三%、製菓調理一%、リハビリ助手一%、営業一%であった。これらを、地域別に見てみると、就職地域内訳は次のとおりである。函館市内近郊四五%、東北地方二八%、その他道内一六%、関東七%、その他道南三%、札幌市内一%である。就職先地域別の状況を見ると、入試受験者の分布に大変似ている。本学の入学者は地元函館出身者が多いのは当然として、東北地方が多く、また、関東などからも在学者があり、資格を取得してから就職は地元ですとの見方ができる。一例として、本学で栄養士と調理師の資格を二年間の中で取得できる事などを考えると、就職に有利性がある。本学での学習が単なる資格教育だけではなく、高度な人格の涵養を志した時、一つの

資格を取得する努力の仕方は、次のステップにも応用でき、学び方の訓練にもなり、職業人となった時にも忘れることなく応用できるものと確信するところである。